



1951年（昭和26年）48歳
「吉田肉腫」昭和天皇の天覧を賜る

マ・ペルー・メキシコ・米国・ドイツ・イギリス・フランス・イタリア・エジプトなどです。富三の活躍する姿が、目に見えるようです。

同じ年に、世界対癌連合会副会長（アジア・アフリカ地区長）の要職にも就任しました。まさに、世界の吉田富三となったわけです。

昭和三十年（一九五五年）、母ナヲさんが亡くなりました。富三は、最期の時に、大きな声で母を呼び、泣きくずれました。父と若くして別れ、母ナヲさんの愛情を心に秘めて、学問の道に励んできた富三の、母を思う悲しみの姿に、まわりの人たちも強く感動しました。

しかし、富三は、悲しみに負けている人ではありませんでした。医者として、母の病気の原因を調べる決意をして、主治医だった、富永健先生の手を借りて解剖し、その原因をつきとめました。これは、富三が科学者として深い探究心を持っていた証拠しょうこです。

四

昭和三十四年（一九五九年）十一月三日の文化